

追加資料2 想像力のスイッチを入れよう(下村健一)

〈教材の内容〉

(1) メディアが発信していることについて、印象や思い込みでそのまま鵜呑みにしないことの大切さを述べている。

(2) メディアアリテラシーや読み研の「吟味よみ」的な観点にも通ずる内容。

(3) これまでの教科書教材ではあまり触れられてこなかったような内容。

〈文種〉

「『想像力のスイッチを入れる』ことが大切」という主張が仮説となっており、その大切さを事例をもとに論証しているの

論説文!

・・・だとすれば読んでいく上で大切なのは、仮説が論証によって、説得力のあるものになっているか、筆者の仮説・主張に納得できるか・・・という観点!

「想像力のスイッチを入れよう」

① 構造よみ

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章構造を明らかにしよう。

【発問1】この文章を「はじめ」「なか」「おわり」に分けると、どのようになりますか。

【助言1】この文章で筆者が最も伝えたいことは何ですか。どこに書いてありますか。

【助言2】それはその一か所だけですか。他のところにも同じことが書いてありますか。

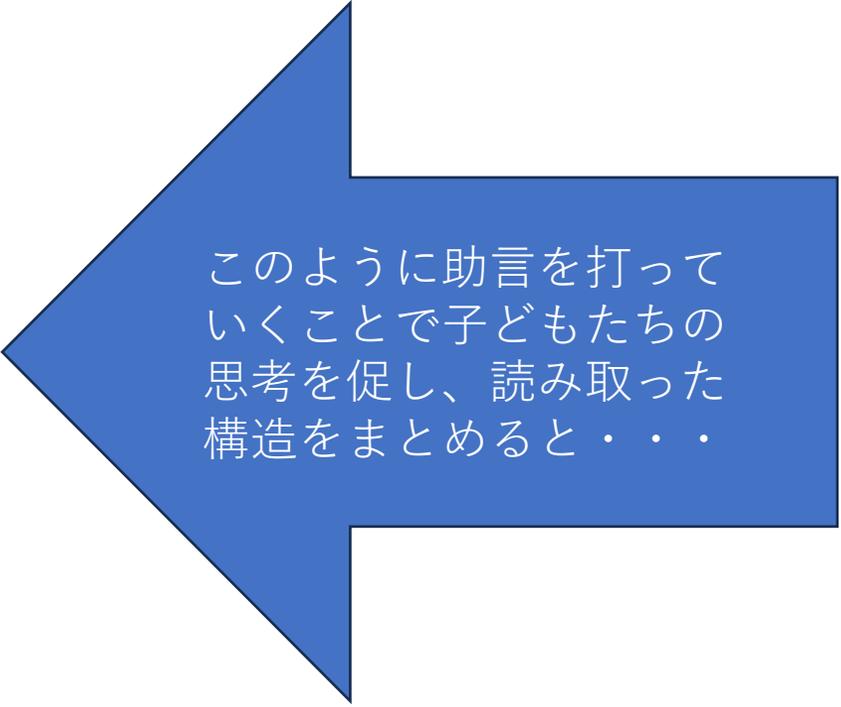
【助言3】「想像力のスイッチを入れること」は比喻を含んでいますね。それがもつと具体的にはどのように書かれていますか。

【助言4】 「想像力のスイッチを入れること」の具体的な言い換えを探するための手がかりになる初めの言葉は何ですか。それはいくつありますか。

【助言5】 「想像力のスイッチを入れること」の具体的な言い換えは全部でいくつありますか。

【助言6】 この文章で最もたくさん書かれている事例は何の事例ですか。

【助言7】 サッカーチームの監督報道の事例の話が終わって、全体のまとめに入っているのはどこの段落からですか。



このように助言を打っていくことで子どもたちの思考を促し、読み取った構造をまとめると・・・

「想像力のスイッチを入れよう」

構造表

結び (おわり) ←	本論 (なか) ←			序論 (はじめ) ←←
16 ← 15 ←	14 ← 7 ←			6 ← 1 ←
<ul style="list-style-type: none"> ●メディアの側も、情報を受け取るあなたの側も、それぞれに努力が必要。↑ ●(結論)あなたの努力は、「想像力のスイッチ」を入れることだ。↑ 	なか3 ← 14 ← 13 ←	なか2 ← 12 ←	なか1 ← 11 ← 7 ←	<ul style="list-style-type: none"> ●マラソン大会の事例↑ ●「メディア」とは↑ ●図形の事例↑ ●(結論)「想像力のスイッチ」を入れてみるのが大切。↑
	<ul style="list-style-type: none"> ●だれかを苦しめたり、だれかが不利益を受けたりすること↓ 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝えていないことにも想像力を働かせること↓ ●暗がり「何がかくれているか」と想像すること↓ 	<ul style="list-style-type: none"> ●結論を急がないこと(小問題提示的に軽く主張)↑ ●「事実かな、印象かな」と考えてみること↓ ●「他の見方もないかな」と想像してみること↓ 	

そうか！この文章は「はじめ」と終わりで仮説を述べ、本論で論証するタイプなんだ！（双括型！）

●印は筆者の仮説を示す。↑

「想像力のスイッチを入れよう」

② 論理よみ

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の論理展開を明らかにしよう。

【発問1】 「はじめ」の柱の段

落は、何段落でしようか。

【助言1】 「はじめ」には、その文章がこれから何を明らかにしようとするのかを示す役割がありましたね。

【助言2】 多くの場合、それは問い（問題提示）の形で現れることが多いのですが、構造よみで見たように、この文章にはそのような問いはありませんね。問いではない形で、何を明らかにしたい文章かがはっきり示されているのは、どの段落ですか。

【助言3】 そうです。6段落が結論を先行提示して「想像力のスイッチを入れてみる」ことが大切」と言っていますね。これが柱の段落ですね。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の論理展開を明らかにしよう。

【小課題】ではこの6段落の内容を導き出すために、1～5段落がどのような役割をしているか、その論理展開を考えてみましょう。

【助言1】この文章はまず、1・2段落のマラソン大会の例から始まっていますね。この例はどこどの内容を言うために出されているんですか。

【助言2】3段落の「同じ出来事でも、何を大事と思うかによって、発信する内容がちがってくる」っていうことを言うためですね。それをふまえて4段落は何を言っていますか。

【助言3】つまり4段落は3段落の内容を「メディアも同じ」と発展させて言っているんですね。では5段落。「例えば」ってあるから、これは・・・例ですね。どここの部分を支えるための例ですか。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「の論理展開を明らかにしよう。」

【説明】 そう、つまり、「はじめ」では1・2段落のマラソン大会の例からわかることを3段落でまとめ、それを4段落で「メディアも同じ」と発展させて、さらにその部分を5段落の図形の例で支えているっていうことですね。図示すると、次のようになります。

事例をもとに出した主張をさらに事例で固めて強めに主張しなす、筆者の論理展開の特徴が見えてくるんですね！

はじめ

(マラソン大会の例)

1 五位も下がった。

2 三十秒もタイムが縮まった。

まとめられ(前提・結論)

3 同じ出来事でも、何を大事と思うかによって、発信する内容がちがってくる。

発展

③メディアからの情報も全ての面を伝えられない。

④メディアは大事だと思う側面を切り取って情報を伝えている。*4段落の③④文は小さな柱の働き

図形による例

5 切り取られた情報から全体を判断した思いこみ

結論の先行提示(大問題提示と同じ役割)

6 このような思いこみを減らすため、あたえられた情報を事

実の全てだと受け止めず、「想像力のスイッチ」を入れてみることが大切だ。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「の論理展開を明らかにしよう。」

【小課題】 同じように「なか」

1・2の論理展開についても考えて図式化してみましよう。

【発問1】 「なか」の柱の段落と柱

の文はそれぞれどこですか。

【助言1】 論説文だから、どんなところが柱になるんですか。

【助言2】 論説文にあって説明文にはない、文章のメインの要素は何ですか。

【助言3】 そう、仮説が柱になりますね。具体的な仮説が書かれている文を探しましょう。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の論理展開を明らかにしよう。

【助言4】 「なか1」の8段落の①文や9段落の①文は、一見仮説のように見えますが、あまり具体的ではありませんね。

【助言5】 筆者はいつも仮説を述べる前にまずどうしている？

【助言6】 そう、事例を述べてからバーンと仮説を提示しているよね。事例の後に書かれている仮説に注目しよう。

【助言7】 「なか2」の12段落の①文もちょっと弱い。ここは事例はないけど①文より具体的に書かれている仮説があるよ。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「の論理展開を明らかにしよう。」

【説明】例えば、「なか1」は次のように図式化することができます。

⑦ (事例) サッカーチームの新監督についての報道

⑧ ①まず大切なこと＝結論を急がないこと。(軽く主張)
②文以降 ← 言い換え

⑨ ①いったん立ち止まったら、メディアが伝えた情報について、冷静に見直してみよう。

②～⑥ 「報道陣をさげるためか」・「にげるように」は印象。

⑦ このように、想像力を働かせながら、一つ一つの言葉について「事実かな、印象かな。」と考えることが大切である。

⑩ ①記事「Aさんは、来月から予定していた外国での仕事を最近キャンセルした。」

① (記事に) 印象は混じっていない。
② だから有力な情報のように感じられる。

③ だが『他の見方もないかな。』と想像してみよう。

④ 相手の都合でキャンセルせざるをえなかったのかも
しれない。「他の見方」の例

⑤ 他の見方もありうることに気づけば、Aさんが監督に
ちがいないと考える決め手にはならない。(補足)

「はじめ」「なか1」「なか3」では、事例を述べてから具体的な仮説を提示するパターンが同じだね！

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の論理展開を明らかにしよう。

【小課題】では同じように、

「なか3」に絞って論理関係を考えてみましょう。

【発問1】 「なか3」の柱の段落と

柱の文はそれぞれどこですか。

【助言1】 13段落と14段落はそれぞれどんな段落ですか。

【助言2】 13段落と14段落ではどちらに柱がありそうですか。

【助言3】 13段落は事例だからそこに仮説はありませんね。だとしたら、柱は？

【助言4】 14段落には2つの文があります、仮説は当然？

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「論理展開を明らかにしよう。」

【説明】 「なか3」ではまず13段落で今までの報道にあった「新監督」が結局どうなったかが書いてあるんですね。そして14段落では①文でこれまでの話が架空だったということを書いて、②文で筆者の仮説が登場します。特に「不利益」という言葉はここで初めて出てきましたね。

13

①監督には別の人が選ばれた。↑

②△さんは関係なかった。↑

③しかし△さんは忙しいだろうと、他の人に仕事ごみを委譲するなどが起った。↑

14

①ここに例示した報道は、架空の話である。↑

前置き

②しかし、思いこみや推測によってだれかを苦しめたり、だれかが

不利益を受けたりするのは、実際に起ったものだ。↑

やっぱり同じような論理展開のパターンだね！

「なか2」と「おわり」の論理よみは省略します。(事後資料に一部掲載します。)

「想像力のスイッチを入れよう」

③ 吟味よみ

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章を吟味しよう。

（具体的には）

この文章のすぐれたところ、不十分なところをそれぞれ挙げてみよう。

いくつかの事例やそれを材料とした論証は、筆者の主張に説得力を持たせることに成功しているか、考えてみよう。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章を吟味しよう。

（１）事例が具体的で、ものの見方の多面性を学べる。

マラソン大会の例、図形の例、サッカーの監督の例はいずれも具体的で、物事を思い込みや一面からだけで見めるのではなく、別の方向から見たり、他の可能性がないかを考えてみたりすることの大切さがよくわかる例となっている。

（２）事実と印象を分けることの大切さがわかりやすく示されている。

８段落で示されている例文では「報道陣をさけるためか」と「にげるように」が実は印象であること、それらを取り除いた「Aさんは／うら／口から／出ていきましただけが事実であることがわかりやすく示されている。私たちがいかに印象にとらわれがちか、ということがよくわかる例文である。

評価（肯定）的吟味については、例えば次のような点を指摘することができます。

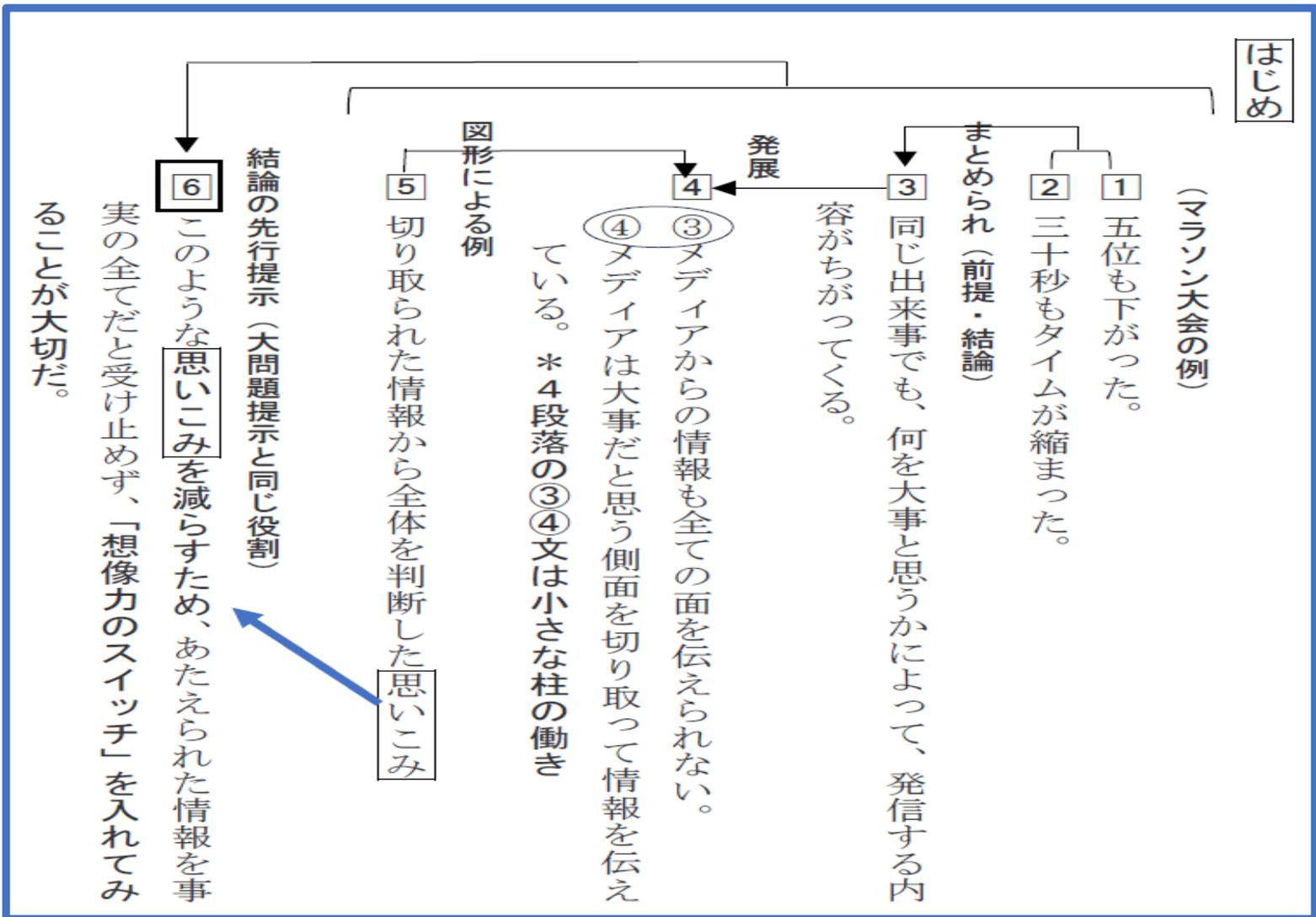
学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「文章を吟味しよう。」

今回は批判的吟味を行います

【小課題1】「はじめ」の論理展開を確認して、不十分な点をしてきしよう。

というわけで、論理よみで整理した「はじめ」の論理展開をもう一度…



学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章を吟味しよう。

【発問1】 「はじめ」の論理関係で不十分なところはありますか？

【助言1】 柱は6段落です。また4段落に小さな柱があります。これらの主張に説得力を持たせようとしているのはどこですか。

【助言2】 6段落に対しては1〜5段落全部の積み重ねで説得力を持たせていますね。4段落の小さな柱についてはどうですか。

【助言3】 5段落の図形の例を出すことで4段落を支えていますね。この例は説得力を持たせることに成功していますか。

【助言4】 5段落の例は4段落の主張と対応していますか。4段落で言っていることの例として、わかりやすいですか。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章を吟味しよう。

【説明】そう、メディアの情報が「大事だと思う側面を切り取って、情報を伝えている」という主張なのに、5段落の例は図形であってメディアの例ではないですよ。

メディアの例は後でサッカーの監督のところが出てきます。

この図形の事例自体はヴィジュアルに訴えていてわかりやすいですが。

【発問2】では、せっかくわかりやすいこの図形の例を残したままに、この部分をリライト（書き直し）するなら、どうしたらよいと思いますか？

【発問3】メディアのことを言っただけから「例えば」と図形の例を出してしまっているのだから、その不対応を解消するためには？

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」の文章を吟味しよう。

【説明】 図形の例を出してから「実はメディアでもこのようなことがあります」と「メディア」という言葉を出せばよいですね。4段落と5段落を逆にした上で「思いこみ」は6段落の直前にも入れて、6段落にながるようにもできそうですね。

4段落(5段落に移動したとき)④文のリライト例

④先ほどの図形と同じように、メディアの場合も切り取られた情報から、全体を判断する思いこみが起こりがちである。

学習課題

「想像力のスイッチを入れよう」「の文章を吟味しよう。

【小発問2】 では今度は「なか3」13段落と14段落で、あれ？って、違和感を覚えたところはありますか？

【助言5】 論理を積み上げていくのに直接関係のない部分はない？

【助言6】 ずっとサッカーの監督の話を読んできて、「架空の話である。」って読んだらどう感じる？

【説明】 今までずっとあたかも実際にこのよ
うなことがあったかのように書かれているに
も関わらず、14段落①文で急にこれが筆者の
創作だったとわかったら、その途端説得力が
薄まってしまいますね。逆にこの一文がなけ
れば、読者はきっと「本当にそういうことが
あった」と思って読むでしょう。説得力とい
う点では、創作であることを隠しておいた方
がいいようにも思いますが、事実ではないこ
とを事実であるかのように伝えてしまうこと
に筆者は後ろめたさを感じ、正直に「実際の
出来事ではない」と言ったのかもかもしれません
ね。

【助言7】 もう少し詳しく読んでみよう。実は、架空の話だっていうことは、その前でも少し仄めかされているよ。探してごらん。

【助言8】 「〜あったとする」「〜出たとしよう」って、筆者は「仮に」っていうメッセージをさりげなく発していたんだね。にも関わらず、「架空」と聞いて読者が「あれ?」「えっ!」と意外に思ってしまったのはどうしてだろう。

【助言9】 「〜あったとする」「〜出たとしよう」とは逆に、あたかも実際にあった話であるかのように読者に印象づけているのは、段落でいうと特にどこかな?

【説明】 特に同じ「なか3」、14段落直前の13段落の書かれ方ですね。「結局、〜選ばれた」とか「〜などのことが起こった。」ってあると、いかにも事実であるような印象を読者に与えるんですね。どんな文が読者にどんな印象を与えるかっていうことも考えて読みましょう。そして自分が書く時にも考えて書く習慣を付けましょう。

ここでまとめると・・・

★構造よみで分けた文章内の パーツ
(はじめ・なか1・なか2：おわり)
ごとに、論理よみを行うことで：

①文章の流れ、筆者の論理展開がよく見える。その筆者ならではの論理展開の特徴もよく見えてくる。

②主張とそれを支える事例、主張とそれを支える根拠の関係がよく見える。どのようにして説得力を持たせようとしているかという筆者の意図が、よく見えてくる。

③その結果、吟味よみも行いやすくなる。事例や根拠から主張を導き出す、その過程に説得力があるかどうかも判断しやすくなる。文章全体への評価にも根拠を持たせやすくなる。

＊ついでに要約にも便利。柱を繋げばできてしまう。

★小中学生の頃に、段落ごとに要点をまとめる授業を受けていた記憶がありますが、それだと文章が途切れ途切れになって繋がりがわからなくなってしまう。全段落がつながって一つの文章になるのだから、その全体の流れ＝論理展開を読み取ることこそが大切なのです。